


加藤与五郎先生と齋藤憲三の 出会い、そして創造の精神

フェライトを世界で初めて工業化した企業・TDK(株)の創業と与五郎博士の関わりについて、秋田県にかほ市にあるTDK歴史みらい館の武内隆之館長にお話を聞きました。  文化観光課 (☎62-1037)

たけうち たかゆき
武内隆之氏：談

TDK創業者・齋藤憲三は、秋田県南部(沿岸) (現在のにかほ市平沢) に、「農聖」と呼ばれた父・宇一郎の三男として誕生しました。大学卒業後、数々の事業の失敗の後、アンゴラウサギの飼育を手掛けます。世界恐慌、そして毎年のように続く冷害に苦しむ農家を楽にするため、副業が必要と考えたのでした。1935年7月、その事業の関連で知り合った、加藤先生門下の小泉勝永氏の引き合わせで加藤先生と齋藤は出会いました。

齋藤は加藤先生に問いました。
「これからの日本に発達させるべき工業は重工業でしょうか。軽工業でしょうか。」

加藤先生は静かな口調で「日本に工業がありますか？」と答えました。不可解な面持ちで齋藤は、「東京にも大阪にも煙突がたくさん立っていて、いろいろな工場が生産活動をしております。日本にも工業はあると思いますが…」加藤先生は、「違います。あれは99パーセント外国のイミテーション、模倣です。日本のオリジナリティに基づく工業でなければ、真の日本の工業とは言えません」齋藤は、その言葉に衝撃を受けました。折りしも、加藤先生と共同で研究していた助教の武井武氏は亜鉛精錬の過程で、収量低下を起こす不純物であるフェライトに優れた磁気的性質を発見していました。

その後、1930年12月に特許出願したものの、まだ事業化先が明確でないフェライトを、加藤先生は齋藤に紹介したのでした。

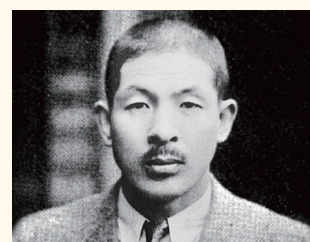
齋藤はアンゴラウサ



▲加藤与五郎博士旭日重光章祝賀会にて齋藤氏とのツーショット (1966年)

齋藤憲三氏について

明治31年(1898)生まれ。TDK(株)の創業をはじめ、さまざまな事業を手掛ける実業家でした。戦後は、衆議院議員として科学技術の振興に努め、科学技術庁(現・文部科学省)の初代政務次官を務めました。昭和45年(1970)に亡くなるまでに、多くの功績を残しています。



▲TDK(株)初代社長 齋藤憲三氏 (41歳当時)